

奈良・阿部六ノ坪遺跡

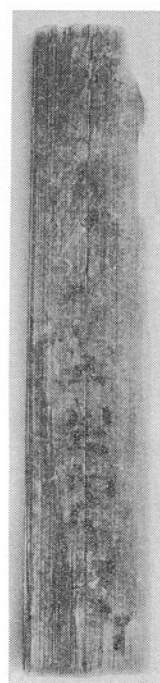
- 1 所在地 奈良県桜井市阿部字六ノ坪
- 2 調査期間 一九八二年(昭57)四月～七月
- 3 発掘機関 奈良県立橿原考古学研究所
- 4 調査担当者 関川尚功
- 5 遺跡の種類 集落?等
- 6 遺跡の時代 古墳時代～飛鳥時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(桜井)

阿部六ノ坪遺跡は病院増築工事に伴って新たに確認された遺跡で、安倍寺に続くと思われる台地の西端に営まれている。検出された遺

構は古墳時代中期後半、飛鳥時代初頭、飛鳥時代末期のほぼ三時期に大別できる。飛鳥時代初頭の遺構としては長さ約五二m以上に及ぶ溝といくつかの土壇、ピットがある。遺物は土器類のほか、獣歯、フイゴの羽口、鉄滓などがある。飛鳥時代



末期の主要遺構は南北四間以上、東西二間の掘立柱建物一棟と木簡を出土した井戸一基がある。東西三間以上の柵列もこの時期に含まれる可能性があるが不明である。木簡を出土した井戸は、一辺が一・二五m×一・〇mのほぼ方形に近い規模を持ち、深さは約四・七mである。井戸は、掘形の四隅に、縦の溝を掘り込んだ掘立柱建物の転用材と思われる四本の柱を据え、三七枚の板を上より落とし込んで作った板組みの構造を持つ。木簡は井戸内部の深さ一・三mの位置より出土した。伴出遺物は、多量の土師器、須恵器のほか、斎串、鋤先、刀子、獣歯などである。

遺跡の性格は周辺に文珠院西古墳などの終末期古墳や安倍寺が所在することなどより、この地域を勢力圏としていた豪族阿部氏との関連を考えることもできよう。ただし、掘立柱建物、井戸については、遺構の時期がかなり短いことや、建物の規則性などから、藤原宮の存続と深い関係を持つものと思われる。

8 木簡の积文・内容

「歩歩歩歩空空□」

230×14×4 011

かなり墨書が剝落しており、「空空空□」の四文字に部分的に墨が残るのみである。木簡は右上の一部を欠くが、四周に切削痕を残し、ほぼ完存に近い。右下隅に四mm×三mmの柄穴状の小孔が穿たれ、内部に木片を残す。習書木簡と思われる。积文については岸俊男先生の御教示を得た。

(関川尚功)

あいつぐ墨書土器の出土

——静岡県坂尻遺跡——

静岡県袋井市にある坂尻遺跡では国道一号線袋井バイパスの建設工事の事前調査として、一九八〇年一二月から発掘調査が行われており、本誌第四号に掲載された木簡の他にも、墨書土器が多数出土している。八二年三月に公刊された同遺跡の発掘調査概報によると二〇〇点余をこす墨書土器が出土している。同概報には二〇〇点余の墨書土器の积文と、代表的なものの积文とが載せられており、墨書中には「東京」「玉郷長」「駅子」「千山」「竹寸家」等がみえる。

・文献『昭和56年度一般国道一号線袋井バイパス(袋井地区)埋蔵文化財発掘調査概報——坂尻遺跡第二次調査——』
編集 浜松市中沢町一——袋井市教育委員会

京都・長岡京跡(1)

1 所在地 京都府向日市鶏冠井町十相

2 調査期間 一九八二年(昭57)五月～七月

3 発掘機関 向日市教育委員会

4 調査担当者 長谷川浩一

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の時代 八世紀末

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

一九八二年度に長岡宮・京跡で木簡の出土した調査は六件あり(宮城一件、左京二件、右京三件)、その発掘は四機関にわたっている。

本稿は、向日市教育委員会が担当した左京第八九次調査の報告である。

調査地は東二坊大路と南一条条間大路の交差点にあたる。主な検出遺構には東二坊大路東側溝SD八九〇一と溝内の堰SX八九〇五、南一条条間大路南側溝SD



(京都西南部)